

## 独自の「遠隔健康指導システム」 ドライバーの健康を支える

株式会社ボルテックスセイグン



従業員の健康を見守る遠隔健康指導の様子。

群馬県安中市に本社を置く株式会社ボルテックスセイグンは、1951（昭和26）年、西群運送株式会社として創業。幹線輸送から危険物輸送まで、幅広いネットワークと創業以来培ってきた経験、高い技術力を生かして最適な物流を実現する輸送部門に加え、各種の多機能物流倉庫でさまざまな保管・荷役ニーズに対応する倉庫部門、多様な輸送形態・輸送目的に独自の梱包技術で応える包装部門を有する総合物流企業である。1992年に、未来への永続的発展と躍動感をイメージした「渦巻き」を意味する「ボルテックス」を冠した現社名となった。自動車整備、人材派遣、バス、タクシーなど6社のグループ企業を持つ。

単体従業員数は約490人。そのうち約半数がトラックのドライバーであり、3割強が倉庫やフォークリフトの作業員、残りが事務系の社員である。

### 安全第一主義の下、健康増進に注力

基本理念に「安全第一主義」を掲げる同社は、何よりも安全を重視する企業として知られる。取締役 安全品質環境統括担当として同社の安全対策を統括する宇佐見和宏さんは、「当社は、価格だけでなく品質で勝負する方針です。『あの会社は事故なく運んでくれる』とお客様に安心してもらえる運転を目指しています」と語る。業界の先陣を切って導入したドライブレコーダー、警察OBによるドライバーに対する同乗指導、荷台に安全に乗り降りできる特別仕様のトラック、繰り返し行われる教育訓練、20年以上続くKYT（危険予知トレーニング）活動……。多彩な活動の中でも、安全には手を抜かない姿勢がよく表れているのが、毎月行う防災訓練だ。ここでAEDの使い方等を学ばせていくことで、安全に対する意識を向上させた。

従業員の健康管理も、こうした取組の一環として、充実と強化を図ってきた。担当するのは、健康管理室保健師の松田しのぶさんと4人の人事部員。各事業場の産業医と連携しながら、定期健康診断に基づく健康状態の把握や再検査のお知らせ、健康相談、保健指導、長時間労働者面談、復職面談などに取り組んでいる。毎月「健康管理室だより」を発行して社員の意識啓発にも努めており、7月号では、「夏の食事のポイント」として、夏バテ防止と食中毒予防について取り上げた。

定期健診で一定の条件に該当した社員には、会社負担でホルター心電図やABI検査を付加健診として実施する。また、労働時間が一定以上となった従業員がいた場合には、労働者の疲労蓄積自己チェックリストをし、3か月連続した場合は面談をするなど、早い段階で問題の芽を摘む方針である。

## 遠隔健康指導システムを独自開発

最近、特に力を入れているのが、再検査の受診徹底と特定保健指導だ。「高齢のドライバーが多いこともあり持病をお持ちの方もいます。職業病としては、腰痛が多いと言われており、心疾患、脳疾患も多い傾向があります。また、ドライバーはいつも決まった時間に食事をとれるわけではなく、車内で食べるものも限られますので、脂質や糖質が多くなりがちです」と保健師の松田しのぶさんは注意を促す。

再検査の診断が出た場合、松田さんから部門長に連絡が行き、部門長が配車スケジュールを調整する。以前は、部門長を介さず本人に直接連絡していたため、本人が「まあ、いいや」と思ったら、受診しないままになっていた。低いときには27%だった再検査受診率が、現在のやり方に変えたことで94%にまで向上した。

未然予防としての特定保健指導(自社で特定保健指導を行うのは群馬県では初の取組)は、定期健診後、産業医の指示により必要がある社員に対して、松田さんが行う。しかし同社は、新潟県上越市、福島県白河市、千葉県市原市、長野県千曲市などに営業拠点があり、本社から最も遠い千葉は、車で約4時間半もかかる。そこで威力を発揮するのが、独自開発した「遠隔健康指導システム」である。

同システムの開発は、もともとはIT点呼システムの開発から始まっている。ドライバーの点呼は安全運転に欠かせないが、実際はおろそかになりがちである。そこで同社は、2005年に、独自の血圧・アルコール検知システム付きIT点呼システムを開発。運転者からの報告、顔色等の観察、アルコールチェックなどを各事業所に任せるのではなく、本社の管理者がオンラインで行えるようにした。さらに2012年度には、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構と

の共同研究で、高齢者でも使いやすい仕組みに改善。その過程で「健康指導にも使えるのでは」というアイデアが生まれ、2013～2014年度に再度、同機構と共同研究を行い、このシステムを開発した。

同システムでは、過去5年分の健診結果、点呼時に測定する血圧や体温などのデータ、前回の面談記録をパソコン画面に表示し、互いにそれを見ながら、また、相手の顔を見ながら面談をする。「前回、『お酒を控える』と言っていましたか、どうですか」、「残業や睡眠時間は変わりないですか」などと松田さんが質問し、入力していく。従業員の側もそれを見ながら指導を受けるので、非常に意識付けの効果が高い。開発に当たって苦労したのは、拠点ごとに産業医が異なり、データのフォーマットが異なっていたこと。情報システム部グループリーダーの後藤忠義さんによれば、「今も改善しながら運用しています」という。

## 会社が従業員に関心を持つこと

執行役員 人事部部長の唐澤仁志さんは、「人手不足の業界ということもあり、従業員には、長く働いてほしいと考えています。当社では、働く意思と健康な体があれば、70代でも働き続けることができます。そのためには、健康が不可欠です。会社の方針、社長の方針として徹底してきたことで、安全・健康に対する意識が定着してきました」と、これまでの取組を振り返る。

今後は、健康管理システムとストレスチェックの連動を検討している。また、ドライバー以外にも目を向け、全従業員の体温を出勤時に測定し、一定以上の場合は部門長に注意を促す構想もある。さらに、同社の武井宏社長が群馬県トラック協会の会長を務めることから、協会を通じて同システムの廉価版の更なる開発・普及にも取り組んでいく。

### 会社概要

株式会社ボルテックスセイグン

事業内容：運輸業、倉庫業、通関業、特定派遣業、産業廃棄物収集運搬業

設立：1951年

従業員：約490人（2018年2月現在）

所在地：群馬県安中市